

教育制度と「統一試験」

鈴木 そよ子

はじめに

教育制度は、国の歴史と文化、政治、経済力、国の教育理念等が相まって一つの形を成したものである。現状を見ると、国によって義務教育の年数が異なり、無償の対象範囲や年数、また、公立校と私立校の割合や、学習内容、進学率も異なる。これらの相違を前提としながらも、日本と諸外国の教育制度を、1点に焦点を当てて比べてみることで、日本の教育制度の特質を見出すことができる。

本稿では、各国の教育制度における「統一試験」に注目する。「統一試験」の名称は国によって異なるが、本稿では共通名称として「統一試験」と称する。教育制度の責任主体が行っている試験を示す。

「統一試験」の規模は、教育制度が国で統一されているか、州ごとに統一されているかによって異なる。卒業認定試験の場合や入学試験の場合もある。対象者が全員受験する試験、あるいはその試験に合格しなければ、次の段階の教育機関には進学できない試験を指す。

「統一試験」に注目することは、初等教育を終えて、前期中等教育機関に進学する際、後期中等教育機関に進学する際、また、高等教育機関に進学する際の選抜システム、あるいは進学資格取得システムを検討することでもある。各国の教育制度の特徴が「統一試験」に象徴され

ていると考える。

本稿では下記の23ヶ国の教育制度を事例として検討する。¹

- ・ヨーロッパ(11)…イギリス、フランス、ドイツ、オーストリア、スイス、オランダ、フィンランド、ノルウェー、スウェーデン、ポーランド、アイスランド
- ・北米(1)…アメリカ合衆国
- ・アジア(9)…中華人民共和国、大韓民国、シンガポール共和国、フィリピン、ネパール、ミャンマー、タイ、インド、スリランカ
- ・オセアニア(2)…オーストラリア、ニュージーランド

本稿の構成として、まず日本の教育制度における「統一試験」の有無について検討し、次にヨーロッパ、北アメリカ、アジア、オセアニアの国々の「統一試験」の状況について示し、最後に「統一試験」の意味について考察する。

検討結果として、「統一試験」を全く行っていない日本の教育制度の特殊性を指摘することができる。

資料として、本稿末に本論の根拠となったWebサイトの情報を掲載する。本論ではできる限り引用文を短くし、簡潔にまとめたため、各教育段階の就学年数や同じ教育段階の学校の種類については触れていない。これらの情報を

¹ 検討対象とした国々は、基準を設けて選んだわけではない。

補うために資料を添付している。情報検索の際の利便性を考えて、出所を記している。

基本的な資料として、可能な限り最新の情報に基づいて検討するために、外務省Webサイトの「諸外国・地域の学校情報」、文部科学省Webサイトの「諸外国の教育統計」平成27(2015)年版を用いている。

1 日本の教育制度における「統一試験」の有無

日本の教育制度は国で統一されている。初等教育にあたる小学校6年間、前期中等教育にあたる中学校3年間の9年間は義務教育となっており、これらに続く、後期高等教育にあたる高等学校3年間、高等教育にあたる大学4年間は基本的な制度となっている。² 義務教育を終えたのちの後期中等教育機関、高等教育機関に進学するためには入学試験が実施されている。これらの入学試験が「統一試験」に該当するかどうかを検討する。

1-1 後期中等教育機関に進学する際の「統一試験」の有無

基本的に公立校を対象として検討する。中学校から高等学校に進学する際に、生徒たちは入学試験を受ける。この試験は県で統一した内容の試験であるが、この試験によって、中学校を卒業できるかどうかが決まるわけではない。中学校卒業如何と高等学校入学試験での合否は関係ない。また、高等学校入学試験は県立高等学校ならば同じ問題が出題されるが³、成績に

よって予め出願した学校についての合否が決まるのであって、高等学校に進学できる基準レベルに達しているかどうかは問われるのではない。この2点から、日本の義務教育修了後、後期中等教育学校への進学のための「統一試験」は行われていないと判断する。

1-2 高等教育機関に進学する際の「統一試験」の有無

日本の高等教育機関である大学への進学に際して、独立行政法人「大学入試センター」が実施する大学入試センター試験(通称 センター試験)が日本最大規模の試験として行われている。大学の22.5%⁴を占める国公立大学を受験する者は基本的にセンター試験を受験する。また、私立大学の多くも試験方法の一つとして「センター試験利用方式」を採用している。⁵この場合、共通の「センター試験」の成績を利用しているが、「センター試験」自体の合否はない。「センター試験」を利用した入学試験の合格基準は各大学で異なり、また、高等学校の卒業如何とも関係ない。そのため「統一試験」とは異なる。

1-3 日本における卒業と進学

1-1並びに1-2において示したように、日本においては、初等教育を修了する際にも、前期中等教育を修了し、後期高等教育機関である高等学校に進学する際にも、高等教育機関である大学に進学する際にも、「統一試験」は実施されていないと判断する。統一基準のもとで、義務教育修了試験が行われてはいない。高等学校に進学する際にも、大学に進学する際にも、受験校の求める成績と受験生の成績のマッチングが

² 現状の詳細を見ると、小学校と中学校を併せた義務教育学校、また、中学校と高等学校を併せた中等教育学校等の多様な形態もある。また、公立校と私立校の違いもある。

³ 例えば神奈川県では、共通問題としての学力検査、面接、特色検査を併せて合否が決まる。

⁴ http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/002/002b/1368900.htm 2017/01/04
2015年時点での私立大学の割合。

⁵ <http://www.keinet.ne.jp/basic/1-01-1.html>

<http://www.dnc.ac.jp/center/> 2016/12/17

各私立大学に即して入学試験方法を見ると、多様であり、その1つとして「大学入学センター試験」が利用されている。

問われるだけである。

2 ヨーロッパで「統一試験」を設定している国々

イギリス、フランス、ドイツ、オーストリア、スイス、オランダ、フィンランド、ポーランドを例として挙げるが、以下の記述において、アンダーラインは筆者が付したものである。

2-1 イギリス

イギリスでは、「生徒は義務教育終了後にGCSE（全国学力試験）を受験し、その結果を元に進路を決めることとなり、大学進学希望者は6thFormと呼ばれる2年間の受験用コースに進み、Aレベル試験を受けて、3年間の大学を選ぶことになる。」⁶

2-2 フランス

フランスでは、前期中等教育にあたるコレージュからリセへの進学に際しては、入学試験はない。コレージュの4年間の観察・進路指導の結果、3年制のリセに進学するか、2～3年の職業リセに進学するか、振り分けられる。⁷

「リセには進学を目的としたものと、職業的専門知識を習得することを目的としたものがあり、第2学年、第1学年、テルミナルという順で進級する。大学などの高等教育機関に進むには高校卒業資格でもあるバカロレア(Baccalaureate)を受験し、合格することが条件となる。」⁸

2-3 ドイツ

ドイツでは、初等教育に続く前期中等教育の年齢段階でハウプトシューレ、実科学校、ギム

ナジウムに分かれて進学する。「大学進学をする者は、ギムナジウム(Gymnasium)又は総合制学校(Integrierte Sekundarschule)の上級段階を卒業し、Abitur(アビトゥア:大学入学資格)試験に合格する必要がある。」⁹

2-4 オーストリア

オーストリアでは、「4年間の初等教育修了後、新中学校(Neue Mittelschule)又は一般教育中高等学校(A.H.S.:Allgemeinbildende Höhere Schulen)中等部への進学を選択する。

一般教育中高等学校の中等部(A.H.S.)では4年生修了時に、高等部(A.H.S.)への進学か高等職業専門学校への進学のいずれかを選択する。

一般教育中高等学校の高等部(A.H.S.)に進学した者及び高等職業専門学校(B.H.S.)に進学した者は、大学進学試験(MATURA)を受験し合格すれば大学への進学が認められる。」¹⁰

2-5 スイス

スイスでは、初等教育修了後に、普通中学校、あるいは大学進学に向けた高等学校(Gymnasium)の中学部に分かれて進学する。「小学校での成績が良い生徒は」¹¹、後者に進学する。「また州によっては、専門高等学校又は職業訓練学校において必要な条件を満たした生徒は、高等学校へ編入し大学入学資格試験を受けることができる。高等学校において、Matura(Gymnasium卒業試験合格証)を取得すると一般大学、専門大学、更なる高等職業教育等の大学への道が開かれる。」¹²

2-6 オランダ

オランダでは、中等教育が大学進学中等教育(VWO: 6年間)、中級一般中等教育(HAVO: 5

⁶ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/05europe/infoC51000.html 2016/11/24

⁷ 文部科学省「諸外国の教育統計」平成27(2015)年版, 1.1.1.4 フランス

⁸ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/05europe/infoC53600.html 2016/11/29

⁹ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/05europe/infoC53000.html 2016/11/30

¹⁰ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/05europe/infoC51200.html 2016/11/30

¹¹ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/05europe/infoC52100.html 2016/11/30

¹² http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/05europe/infoC52100.html 2016/11/30

その他、成人のための教育制度が整備されている。

年間)、初級一般中等教育 (MAVO: 4年間)・初級実務中等教育 (LBO: 4年間) の3種にわかかれており、大学進学中等教育 (VWO: 6年間) は卒業後に、修士レベルの高等教育を受けるための準備をする中等教育である。中級一般中等教育 (HAVO: 5年間) は卒業後に実践的専門性の高い学士レベルの高等教育を受けるための準備をする中等教育である。初級一般中等教育 (MAVO: 4年間)・初級実務中等教育 (LBO: 4年間) は主として卒業後に職業訓練等を受ける準備をするための中等教育である。¹³ 初等教育修了後、すぐに分かれるのではなく、「ほとんどの中等学校では、これらの教育のうち2種類以上を提供しており、(略-鈴木) 2年間で、上記の3コースのどれに進むかを最終決定することができるようになってきている。」¹⁴ VWO及びHAVOへの進学は、「国立評価教育研究所 (CITO)が行う『全国共通試験』の成績などを参考にして行われる。」¹⁵ また、大学についてみると、「オランダの中等教育で最高レベルであるVWOの卒業資格をとった学生のみが入学を許される。」¹⁶ 基本的にドイツのアビトゥアと

同じシステムになっている。

2-7 フィンランド

フィンランドでは「基礎教育課程において、国の統一テストは一切行っていない。ただし教師たちは、それぞれの教科でカリキュラムにのっとった形で評価する責任を負う。基礎教育の到達評価と基礎教育の履修証は9年生の最後に渡されるが、こちらも教師の任務である。生徒の進路については、この評価に基づいて選考される。」¹⁷

後期中等教育にあたる高等学校と職業学校の教育は、「高校卒業資格試験となる全国統一テストによって終了となる。(略-鈴木) この全国統一テストを終え、高校での課程を修了したところで、生徒はこれとは別に試験での結果詳細や受けてきた教科の評価を受ける。」¹⁸

大学やポリテクニク¹⁹の進学については、「すべての分野において入学の門は制限されている。入学希望者が募集人数を上回っているのだ。大学もポリテクニクもそれぞれ違った選考基準で選考を行う。一般的には統一テストの結果と入試が選考に含まれている。」²⁰

¹³ http://www.city.setagaya.lg.jp/kurashi/103/133/523/d00133471_d/fil/HP2.pdf#search=%E3%82%AA%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%80+%E6%95%99%E8%82%B2%E5%88%B6%E5%BA%A6' 2016/11/30

¹⁴ http://www.city.setagaya.lg.jp/kurashi/103/133/523/d00133471_d/fil/HP2.pdf#search=%E3%82%AA%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%80+%E6%95%99%E8%82%B2%E5%88%B6%E5%BA%A6'p.11 2016/11/30

¹⁵ <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AA%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%80%E3%81%AE%E6%95%99%E8%82%B2> 2016/11/30

¹⁶ <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AA%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%80%E3%81%AE%E9%AB%98%E7%AD%89%E6%95%99%E8%82%B2> 2016/11/30

¹⁷ http://www.oph.fi/download/151277_education_in_finland_japanese_2013.pdf#search=%27%E3%83%95%E3%82%A3%E3%83%B3%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%89+%E6%95%99%E8%82%B2%E5%88%B6%E5%BA%A6%27 2016/12/12

同出所に「この評価については各教科でそのガイドラインが国の核となるカリキュラムの中に解説されている。」と付記されている。

¹⁸ http://www.oph.fi/download/151277_education_in_finland_japanese_2013.pdf#search=%27%E3%83%95%E3%82%A3%E3%83%B3%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%89+%E6%95%99%E8%82%B2%E5%88%B6%E5%BA%A6%27 2016/12/12

¹⁹ http://www.oph.fi/download/151277_education_in_finland_japanese_2013.pdf#search=%27%E3%83%95%E3%82%A3%E3%83%B3%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%89+%E6%95%99%E8%82%B2%E5%88%B6%E5%BA%A6%27 2016/12/12

²⁰ http://www.oph.fi/download/151277_education_in_finland_japanese_2013.pdf#search=%27%E3%83%95%E3%82%A3%E3%83%B3%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%89+%E6%95%99%E8%82%B2%E5%88%B6%E5%BA%A6%27 2016/12/12

「全国统一テスト(高校卒業資格試験)によって高等教育への資格が与えられる。加えて職業学校を終了するか、あるいは少なくとも3年間の実働証明があれば、大学入学資格となる。また大学側も学問を修めるための必要なスキルや知識があると認められる場合、大学が応募を受け入れることができる。」²¹

2-8 ポーランド

ポーランドでは、「原則として18歳までは義務教育を受けなければならない、義務教育期間中の退学は(例え、高校生であっても)認められない。」「高校が高等専門学校を修了し、統一試験(マトゥーラ: Matura)に合格した者が、大学へ進学できる。高等教育機関への進学率は約55%。」²²

3 アジアで「統一試験」を設定している国々

中華人民共和国、大韓民国、シンガポール共和国、ネパール、ミャンマー、タイ、インド、スリランカを例として挙げるが、以下の記述において、アンダーラインは筆者が付したものである。

3-1 中華人民共和国

中華人民共和国では、前期中等教育にあたる「初級中学卒業後は普通教育を行う高級中学(原語同)と職業技術教育を行う中等専門学校(原語:中等专业学校)、技術労働者学校(原語:技工学校)、職業中学(原語に同じ)とに分か

れる。後期中等教育機関への入学に際しては、各省・自治区・直轄市で統一入試が実施される。²³この統一試験は「卒業試験であるとともに高級中学等への入学試験ともなっている。生徒は事前に第一志望以下何校かを記入した志願書を提出し、この統一試験の成績に基づいて進学先が決定される。」²⁴

大学は「普通大学」と「成人大学」にわかれており、「普通大学」は国家の定める設置基準によって設立され、全国普通大学統一テストに合格した高校卒業生を対象とする全日制の大学である。²⁵

3-2 大韓民国

大韓民国では、「後期中等教育は、3年間、普通高等学校及び職業高等学校で行われる。普通高等学校の入学者は共通試験の合格者を学区内の学校に抽選で機械的に振り分ける『平準化』政策がとられている。職業高等学校は学校別に選抜により入学者を決定している。

また普通高等学校には、各分野の英才を対象にした高等学校(芸術高等学校、体育高等学校、科学高等学校、外国語高等学校)があり(普通高等学校全体の約5パーセント)、これらの高校は厳格な入学者選抜がある。」²⁶

高等教育への進学に際しては大学共通の大学修学能力試験がある。「国公私立を問わず4年制大学の大部分の志願者がこの試験を受けなければならない。(略-鈴木)大学は、高校作成の「総合生活記録符」と呼ばれる内申書および2次試験と合わせて総合評価するが、この大学修学能力試験が最大の比重を占める。比重は大

²¹ http://www.oph.fi/download/151277_education_in_finland_japanese_2013.pdf#search=%27%E3%83%95%E3%82%A3%E3%83%B3%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%89+%E6%95%99%E8%82%B2%E5%88%B6%E5%BA%A6%27 2016/12/12

²² http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/05europe/infoC54000.html 2016/12/2

²³ http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/015/siryo/05120501/007/006.htm 2016/12/03

²⁴ <http://kwww3.koshigaya.bunkyo.ac.jp/wiki/index.php/%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E3%81%AE%E6%95%99%E8%82%B2> 2016/12/03

²⁵ http://www.spc.jst.go.jp/education/higher_edct/hi_ed_1/1_2/1_2_1.html 2016/12/03

²⁶ http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/015/siryo/05120501/006/005.htm 2016/12/04

学, 学科, 受験方式により異なる。」²⁷

3-3 シンガポール共和国

シンガポール共和国では、「小学校6年生終了時に初等教育修了試験(P S L E)が行われ, また中学校卒業時と高校卒業時には, それぞれGCE"N"(Singapore-Cambridge General Certificate of Education Normal) または"O"(Ordinary) レベル, GCE"A"(Singapore-Cambridge General Certificate of Education Advanced) レベルの試験があり, その成績により進学コースが決定される。」²⁸

3-4 ネパール

ネパールでは, 中等教育は9年生から12年生までの4年間で, 「10年生及び12年生終了時に各々全国共通の認定試験SLC (School Leaving Certificate)がある。この成績は大学への入学, 公務員の採用試験の際に必要とされる。」²⁹

3-5 ミャンマー

ミャンマーでは, 教育制度が初等教育と中等教育を合わせた「基礎教育」と高等教育から構成されている。「基礎教育機関には, 小学校5年間, 中学校4年間, 高等学校2年間および各種職業学校がある。高等教育機関には, 短期大学, 大学がある。」³⁰「2001年度からは, 1年生から11年生までの進級および11年生修了について, 各教科修了テスト及び学年末試験により児童生徒の学力を評価する『学力継続評価制度』を実施している。(略-鈴木) 大学入学試験については, 11年生卒業と大学入試を兼ねた, ミャンマー試験委員会による『全国共通試験』が実施されている。」³¹

3-6 タイ

タイでは, 初等教育機関にあたる6年間の初等学校, 前期中等教育機関にあたる3年間の前期中等学校が義務教育期間となっており, それに続くのが3年間の後期中等学校, さらに4年間の大学である。³²

「高校(後期中等学校-鈴木)には入学試験を受けて入学する。また各段階では, 生徒はNET (National Educational Test) という試験に通る必要がある。生徒は小学校(初等学校-鈴木)の6年間と最低3年間の中学校(前期中等学校-鈴木)に出席する必要がある。高校卒業するものには, 2つのテストがある。O-NET(Ordinary National Educational Test) と A-NET (Advanced National Educational Test)である。」³³

3-7 インド

インドでは, 初等教育と中等教育が, 初等学校, 上級初等学校, 中等学校, 上級中等学校の4段階になっており, 「5・3・2・2制を基本としている(州により若干の相違あり)。中等学校(10年生)修了後, 第10学年修了共通試験に合格した者は上級中等学校に進み, 2年間の教育を受ける。その後, 第12学年修了共通試験を受け, その結果によって希望する大学に進学することになる。トップレベルの大学では別途, 入学試験を行うところもある。」³⁴

3-8 スリランカ

スリランカでは, 義務教育は, 就学前教育にあたる幼稚園の1年間から始まり, 小・中一貫教育の11年間を合わせて12年間となっている。

²⁷ <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E4%BF%AE%E5%AD%A6%E8%83%BD%E5%8A%9B%E8%A9%A6%E9%A8%93> 2016/12/04

²⁸ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/01asia/infoC10400.html 2016/12/07

²⁹ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/01asia/infoC10900.html 2016/12/07

³⁰ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/01asia/infoC11800.html 2016/12/07

³¹ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/01asia/infoC11800.html 2016/12/07

³² http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/01asia/index01.html 2016/12/09

³³ <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BF%E3%82%A4%E3%81%AE%E6%95%99%E8%82%B2> 2016/12/07

³⁴ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/01asia/infoC10100.html 2016/12/10

「義務教育修了時にはGCE"O"レベルの試験(国家試験)があり、成績優秀者は高校進学³⁵の資格を得ることができる。合格率は平均して受験生の30~40パーセントとなっている。高校2年生時にはGCE"A"レベルの試験があり、この結果が大学進学、就職に大きく影響する。大学に進学する者は、約2パーセント弱である。」³⁵

4 オセアニアで「統一試験」を設定している国々

オーストラリア、ニュージーランドを例として挙げるが、以下の記述において、アンダーラインは筆者が付したものである。

4-1 オーストラリア

オーストラリアでは、「就学前教育、義務教育(準備学級(5歳児)を除く初等教育及び前期中等教育)、義務教育以降の教育(後期中等教育、大学等)の段階に分かれている。」「後期中等教育(College):16歳~(2年間) 専門学校(VET/TAFE):16歳~(約2年間) 大学(University):18歳~(3~4年間) ※TAFE(Technical and Further Education)と呼ばれ、ビジネス、会計、観光、建築等専門分野について学習する公立の専門学校で、職業教育訓練校(VET: Vocational Education and Training)の大部分を占める。」「前期中等教育終了後、大学(University)や専門学校(TAFE)へ進学を希望する学生は後期中等教育(Year11, 12)に進学し、大学や専門学校で専攻する専門分野の基礎を勉強する。Year12の後半で、州ごとに実施される統一試験を受験し、後期中等教育の成績と併せて志望する大学及び専門学校への入学の可否が決定される。」³⁶

4-2 ニュージーランド

ニュージーランドでは、中等教育(Secondary School)はYear 9~13で、13歳から入学するが、そのほとんどはカレッジ(College)と呼ばれている。「大学、技術専門学校はすべて国立。大学に進学するためには、year13を修了し、NCEA(National Certificate of Education Achievement)のレベル3を取得する必要がある、NCEAの結果により志望大学が決定する。」³⁷

5 「統一試験」を設定していない国々

アメリカ合衆国、ノルウェー、スウェーデン、アイスランドを例として挙げる。

5-1 アメリカ合衆国

アメリカ合衆国の義務教育の期間は州によって異なり、9年から12年であるが、初等・中等教育は合計12年である。³⁸

後期中等教育にあたるハイスクールの入学試験については、公立高校と私立高校で異なる。

高等教育にあたる教育機関は総合大学、総合大学以外の4年制大学、2年制大学に大別されている。大学入学制度の概要を「教育改革国民会議の2000(平成12)年配付資料から知ることができる。

「アメリカでは大学入学についての統一的な規定はなく、各大学の定めた入学要件にしたがって入学者の決定が行われているが、多くの大学がSAT I (Scholastic Assessment Test), ACT (American College Test Program)の受験を義務づけているなど、共通する部分も多い。その決定方式は概ね以下の3つに分類される。

³⁵ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/01asia/infoC10500.html 2016/12/10

³⁶ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/02pacific/infoC20100.html 2016/12/10
オーストラリアの引用文はすべて注36と同出所。

³⁷ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/02pacific/infoC20800.html 2016/12/10

³⁸ http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/data/syogaiokoku/1379305.htm 2016/12/12

(1) 基準以上入学型 (Selective)

ハイスクールの卒業資格のほか、ハイスクールでの特定科目の履修と学業成績、及び適正テスト (SAT I 又はACT) の成績等において、大学が定めた基準を満たした者を全員入学させるもので、多くの州立大学の入学方式がこれに含まれる。

(2) 競争型 (Competitive)

入学希望者が定員を大幅に上回るため、ハイスクールの卒業資格のほか、高いレベルの学力あるいは特定の資格を有する限られた数の入学者を選抜するもので、一部の有名私立大学などで用いられている。

(3) 開放型 (Open)

成績等に関係なくすべてのハイスクール卒業資格を持つ者に入学を認めるもので、短期大学 (コミュニティ・カリッジ) などで行われている。³⁹

入学者決定方法については「出願に際し、志願者は入学を希望する大学に願書のほか、ハイスクールの学業成績、ハイスクールからの推薦状、学力適正テスト (SAT I 又はACT。大学がテストを指定している場合や、どちらを受験しても良い場合がある。) の得点、小論文の提出が求められ、この他に面接が課される場合もある。

各大学では、この情報をAO (アドミッション・オフィス) と呼ばれる入学担当事務局の専門職員 (アドミッション・オフィサー) が総合的に判断し入学者を決定する。⁴⁰

5-2 ノルウェー

ノルウェーでは、義務教育期間は満6歳からの10年間で、「義務教育を終了した者の9割が高校へ進学する。高校には普通科と職業科があり、前者は語学系と理数系とに分かれ、修了す

れば大学に進学できる。後者は細かな職業別 (大工、配管、電気、演劇、理髪など) により構成され、3年間学べば一人前の職業人と認められる。他方、職業科を履修した者でも、大学入学資格試験に合格すれば大学に進むことができる。高校以上の学校に進学する場合、入学試験は行われないが、受け入れ側の人数にも制限があるため、高校進学の際は中学校の成績によって、また大学へは高校の成績に基づいて選抜される。進学の前年度には生徒ははかなり熱心に勉強するが、日本の受験勉強の激しさとは比較にはならない。⁴¹

5-3 スウェーデン

「スウェーデンの義務教育は、基礎学校 (3年間×3段階) の9年間で、基礎学校の上には総合制高等学校 (3年制) が置かれている。大学へは数年間働いてから入学するケースも多く、労働経験もメリットとなるシステムになっている。⁴²

5-4 アイスランド

アイスランドでは6歳から16歳までの10年間で義務教育となっており、「毎年4年生及び7年生を対象にしたアイスランド語と算数、10年生を対象にしたアイスランド語、算数、英語の全国一斉試験が実施される。これまで、義務教育修了時に全国統一試験が実施され、その試験結果が中等教育進学への基準となっていたが、現在は一斉試験の代わりに、各学校における定期試験を基にした評価基準が適用されている。⁴³

6 「統一試験」の意味するもの

本稿で対象とした国々の多くが「統一試験」を実施している。初等教育を修了する時点、義務教育を修了する時点、さらに、後期中等教育

³⁹ <http://www.kantei.go.jp/jp/kyouiku/3bunkakai/dai3/3-3siryou4.html> 2016/12/13

⁴⁰ <http://www.kantei.go.jp/jp/kyouiku/3bunkakai/dai3/3-3siryou4.html> 2016/12/13

⁴¹ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/05europe/infoC53200.html 2016/12/2

⁴² http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/05europe/infoC52200.html 2016/12/2

⁴³ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/05europe/infoC50100.html 2016/12/2

を修了する時点のいずれかまたは、複数の時点で「統一試験」を実施している。「統一試験」によって、当該教育段階を修了できるかどうか、また、後期中等教育機関や高等教育機関に進学できるかどうかが決まっている。

このことは、教育制度の各段階での学習成果として一定レベルの目標が明確に示されているということであり、そのレベルを目標とした教育活動が行われるということの意味する。

本稿の検討事例の中では少ないが、「統一試験」を実施していない国の場合は、教育段階が変わる際の入学試験そのものがないシステムか、あるいは、前段階の教育機関内の成績で進学できるシステムを採っている。アメリカの場合は、また異なっており、大学による入学試験方法の多様性が関係している。

検討対象とした諸外国と日本の教育制度を併せてみると、日本の特殊性が見えてくる。

日本ではどの教育段階でも「統一試験」を実施していない。各段階の課程修了に関わる評価は学校に委ねられている。

「統一試験」はないが、日本の後期中等教育にあたる高等学校進学の際、そして高等教育にあたる大学進学の際には入学試験を実施している。どの段階の入学試験でも、求められているのは受験生が願っている学校の求める成績と受験生の成績のマッチングであり、一定レベルの成績を得ているかどうかではない。

むすび

「統一試験」に焦点を当てて諸外国と日本の教育制度をみることで、日本の教育制度に内在している問題が垣間見えてきた。

諸外国の義務教育期間内での「統一試験」と義務教育修了時点での「統一試験」は異なる意味を持っているのだろう。義務教育期間内の初等教育修了に関わる「統一試験」は、生活に必

要な一定レベルの共通内容の修得ができているのかどうかを見ることになっているのではないかと推測するが、これは「統一試験」の内容の検討を経て明確に言えることである。

後期中等教育機関への進学の際に実施される「統一試験」の意味は、若者を一人前の職業人にさせ、若者を国家の産業を継承発展させる国民に育成するという課題への取り組みではないかと考えるようになった。

これらは、「統一試験」の内容や、初等・中等教育段階の微妙な展開、後期中等教育段階の教育機関の多様性と割合並びに教育内容、進学状況、公立・私立学校の割合、国家としての教育財政等と併せて論じられる問題でもあり、今後の作業によるところでもある。教育制度については、先行研究も多い。本稿は、「研究ノート」として、筆者の作業をまとめたものであり、今後、いくつかの「研究ノート」を重ねる過程で、先行研究の中に位置づけていきたい。

資料

1 ヨーロッパ

1-1 イギリス

学校制度は6・5・2・3(4)制となっており、そのうち、6・5の11年間は義務教育となっている。「初等教育(5歳～11歳)と中等教育(12歳～16歳)に分かれる。生徒は義務教育終了後にGCSE(全国学力試験)を受験し、その結果を元に進路を決めることとなり、大学進学希望者は6thFormと呼ばれる2年間の受験用コースに進み、Aレベル試験を受けて、3年間の大学を選ぶことになる。」⁴⁴

1-2 フランス

前期中等教育にあたるコレージュを卒業した生徒は、希望によって後期中等教育に当たるリセで、教育を受けることができる。これは無償となっている。「リセには進学を目的としたも

⁴⁴ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/05europe/infoC51000.html 2016/11/24

のと、職業的専門知識を習得することを目的としたものがあり、第2学年、第1学年、テルミナルという順で進級する。大学などの高等教育機関に進むには高校卒業資格でもあるバカロレア (Baccalaureate) を受験し、合格することが条件となる。」⁴⁵

コレージュからリセへの進学に際しては、入学試験はない。コレージュの4年間の観察・進路指導の結果、3年制のリセに進学するか、2～3年の職業リセに進学するか、振り分けられる。⁴⁶

1-3 ドイツ

初等教育は州によって4年から6年間行われる。初等教育に続く前期中等教育の年齢段階でハウプトシューレ、実科学校、ギムナジウムに分かれて進学する。ハウプトシューレは、卒業後に就職して職業訓練を受けるものが主として進学する学校であり、実科学校は卒業後に職業教育学校に進学する者、中級の職に就くものが進学する。これらに対して、ギムナジウムは主に大学進学希望者が進学する8年制から9年制の中等教育機関となっている。初等教育から中等教育への進学は「生徒の能力・適性に依じて」⁴⁷行われる。

「大学進学をする者は、ギムナジウム (Gymnasium) 又は総合制学校 (Integrierte Sekundarschule) の上級段階を卒業し、Abitur (アビトゥア：大学入学資格) 試験に合格する必要がある。」⁴⁸

1-4 オーストリア

6歳から9歳の初等教育終了後、新中学校 (Neue Mittelschule) 又は一般教育中高等学

校 (A.H.S.:Allgemeinbildende Höhere Schulen) 中等部への進学を選択する。

「新中学校では、1年間の総合技術教育課程を経た上で (働きながら) 職業養成学校への進学又は就職、(新中学校から) 職業教育中等学校 (B.M.S.: Berufsbildende mittlere Schule) 又は高等職業専門学校 (B.H.S.: Berufsbildende Höhere Schulen) への進学、の中から進路を選択する。

一般教育中高等学校の中等部 (A.H.S.) では4年生修了時に、高等部 (A.H.S.) への進学か高等職業専門学校への進学のいずれかを選択する。

一般教育中高等学校の高等部 (A.H.S.) に進学した者及び高等職業専門学校 (B.H.S.) に進学した者は、大学進学試験 (MATURA) を受験し合格すれば大学への進学が認められる。」⁴⁹

同資料によれば、新制度のものと新中学校は、義務教育を修了後就職することを前提にした学校ではあるものの⁵⁰、従来の中学校 (Hauptschule) に比べて、就職から進学への進路転換が行いやすくなっている。また、一般教育中高等学校 (A.H.S.) は、進学を目的とした一般教育中高等学校として、ギムナジウムやリアルギムナジウム等専攻分野などにより様々な学校がある。⁵¹

1-5 スイス

初等教育修了後、普通中学校、あるいは大学進学に向けた高等学校 (Gymnasium) の中学部に分かれて進学する。「小学校での成績が良い生徒は」⁵²、後者に進学する。同資料によると勉強が不得意な生徒には、実務中学校が設け

⁴⁵ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/05europe/infoC53600.html 2016/11/29

⁴⁶ 文部科学省「諸外国の教育統計」平成27 (2015) 年版, 1.1.1.4 フランス

⁴⁷ 文部科学省「諸外国の教育統計」平成27 (2015) 年版, 1.1.1.5 ドイツ

⁴⁸ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/05europe/infoC53000.html 2016/11/30

⁴⁹ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/05europe/infoC51200.html 2016/11/30

⁵⁰ 同資料によると、州によって、進学を前提とした学校の役割を持つ学校もある。

⁵¹ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/05europe/infoC51200.html 2016/11/30

⁵² http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/05europe/infoC52100.html 2016/11/30

られている州もある。

前期中等教育にあたる普通中学校や高等学校の中等部の後、大学進学を目的とする高等学校（Gymnasium）、2～4年間の実地研修を含む専門高等学校（Fachmittelschule）又は職業訓練学校（Berufliche Grundbildung）に進学する。

「専門高等学校及び職業訓練学校では職業選択準備が始まり、それぞれの職業内容に沿った授業を行い、保護者と職業カウンセラーを交えて進路を決定していく。また州によっては、専門高等学校又は職業訓練学校において必要な条件を満たした生徒は、高等学校へ編入し大学入学資格試験を受けることができる。高等学校において、Matura（Gymnasium卒業試験合格証）を取得すると一般大学、専門大学、更なる高等職業教育等の大学への道が開かれる。」⁵³

1-6 オランダ

4歳から入学可能な8年間の初等教育を経て、主に、3つの中等教育機関に分かれて進学する。大学進学中等教育（VWO：6年間）、中級一般中等教育（HAVO：5年間）、初級一般中等教育（MAVO：4年間）・初級実務中等教育（LBO：4年間）。

大学進学中等教育（VWO：6年間）は卒業後に、修士レベルの高等教育を受けるための準備をする中等教育である。中級一般中等教育（HAVO：5年間）は卒業後に実践的専門性の高

い学士レベルの高等教育を受けるための準備をする中等教育である。初級一般中等教育（MAVO：4年間）・初級実務中等教育（LBO：4年間）は主として卒業後に職業訓練等を受ける準備をするための中等教育である。⁵⁴初等教育修了後、すぐに分かれるのではなく、「ほとんどの中等学校では、これらの教育のうち2種類以上を提供しており、中等教育の最初の2年間はブリッジクラスという隣接するコースにまたがって学ぶことのできるクラスが設けられており、2年間で、上記の3コースのどれに進むかを最終決定することができるようになっていく。」さらに「オランダの義務教育は満16歳になる年までであるが、24歳までは、中等教育終了資格を取得するまで無償で教育を受けることができる。」⁵⁵

VWO及びHAVOへの進学は、「国立評価教育研究所（CITO）が行う『全国共通試験』の成績などを参考にして行われる。」⁵⁶また、大学についてみると、「オランダの中等教育で最高レベルであるVWOの卒業資格をとった学生のみが入学を許される。」⁵⁷基本的にドイツのアビトゥアと同じシステムになっている。

1-7 フィンランド

初等教育と前期中等教育にあたる9年または10年が基礎学校と呼ばれ、義務教育となっている。⁵⁸「フィンランドでは基礎教育課程において、国の統一テストは一切行っていない。た

⁵³ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/05europe/infoC52100.html 2016/11/30

その他、成人のための教育制度が整備されている。

⁵⁴ http://www.city.setagaya.lg.jp/kurashi/103/133/523/d00133471_d/fil/HP2.pdf#search=%E3%82%AA%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%80%E6%95%99%E8%82%B2%E5%88%B6%E5%BA%A6 2016/11/30

⁵⁵ http://www.city.setagaya.lg.jp/kurashi/103/133/523/d00133471_d/fil/HP2.pdf#search=%E3%82%AA%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%80%E6%95%99%E8%82%B2%E5%88%B6%E5%BA%A6 p.11 2016/11/30

⁵⁶ <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AA%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%80%E3%81%A%E6%95%99%E8%82%B2> 2016/11/30

⁵⁷ <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%AA%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%80%E3%81%A%E9%AB%98%E7%AD%89%E6%95%99%E8%82%B2> 2016/11/30

⁵⁸ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/05europe/infoC53500.html 2016/12/12

だし教師たちは、それぞれの教科でカリキュラムにのっとった形で評価する責任を負う。基礎教育の到達評価と基礎教育の履修証は9年生の最後に渡されるが、こちらも教師の任務である。生徒の進路については、この評価に基づいて選考される。」⁵⁹

後期中等教育にあたる高等学校と職業学校の教育は、「高校卒業資格試験となる全国統一テストによって終了となる。なお全員が必ず受験しなければならない科目は4つ。国語に加え、第二公用語、外国語または数学から選択、さらに文系または理系の一般教養の中から1科目。その他に選択テストが加わる。この全国統一テストを終え、高校での課程を修了したところで、生徒はこれとは別に試験での結果詳細や受けてきた教科の評価を受ける。」⁶⁰

高等教育である大学は学術研究に重点を置き、ポリテクニクは応用科学大学と呼ばれることもあり、実践的な面が強調されている。

大学やポリテクニク⁶¹の進学については、「すべての分野において入学の門は制限されている。入学希望者が募集人数を上回っているのだ。大学もポリテクニクもそれぞれ違った選考基準で選考を行う。一般的には統一テストの

結果と入試が選考に含まれている。」⁶²

「全国統一テスト(高校卒業資格試験)によって高等教育への資格が与えられる。加えて職業学校を終了するか、あるいは少なくとも3年間の実働証明があれば、大学入学資格となる。また大学側も学問を修めるための必要なスキルや知識があると認められる場合、大学が応募を受け入れることができる。」⁶³

「ポリテクニクへの入学許可が認められるのは、高校あるいは職業訓練校を終了している人。ポリテクニクの入学選考は、通常入試、内申書、仕事経験を考慮して行われる。その他ポリテクニクの学問を終了できると考えられるだけの必要なスキルと知識があると認められた場合に、入学が許可されることもある。」⁶⁴

1-8 ノルウェー

義務教育期間は満6歳からの10年間で、「義務教育を終了した者の9割が高校へ進学する。高校には普通科と職業科があり、前者は語学系と理数系とに分かれ、修了すれば大学に進学できる。後者は細かな職業別(大工、配管、電気、演劇、理髪など)により構成され、3年間学べば一人前の職業人と認められる。他方、職業科

⁵⁹ http://www.opf.fi/download/151277_education_in_finland_japanese_2013.pdf#search=%27%E3%83%95%E3%82%A3%E3%83%B3%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%89+%E6%95%99%E8%82%B2%E5%88%B6%E5%BA%A6%27 2016/12/12

同出所に「この評価については各教科でそのガイドラインが国の核となるカリキュラムの中に解説されている。」と付記されている。

⁶⁰ http://www.opf.fi/download/151277_education_in_finland_japanese_2013.pdf#search=%27%E3%83%95%E3%82%A3%E3%83%B3%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%89+%E6%95%99%E8%82%B2%E5%88%B6%E5%BA%A6%27 2016/12/12

⁶¹ http://www.opf.fi/download/151277_education_in_finland_japanese_2013.pdf#search=%27%E3%83%95%E3%82%A3%E3%83%B3%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%89+%E6%95%99%E8%82%B2%E5%88%B6%E5%BA%A6%27 2016/12/12

⁶² http://www.opf.fi/download/151277_education_in_finland_japanese_2013.pdf#search=%27%E3%83%95%E3%82%A3%E3%83%B3%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%89+%E6%95%99%E8%82%B2%E5%88%B6%E5%BA%A6%27 2016/12/12

⁶³ http://www.opf.fi/download/151277_education_in_finland_japanese_2013.pdf#search=%27%E3%83%95%E3%82%A3%E3%83%B3%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%89+%E6%95%99%E8%82%B2%E5%88%B6%E5%BA%A6%27 2016/12/12

⁶⁴ http://www.opf.fi/download/151277_education_in_finland_japanese_2013.pdf#search=%27%E3%83%95%E3%82%A3%E3%83%B3%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%89+%E6%95%99%E8%82%B2%E5%88%B6%E5%BA%A6%27 2016/12/12

を履修した者でも、大学入学資格試験に合格すれば大学に進むことができる。高校以上の学校に進学する場合、入学試験は行われませんが、受け入れ側の人数にも制限があるため、高校進学の際は中学校の成績によって、また大学へは高校の成績に基づいて選抜される。進学の前年度には生徒はかなり熱心に勉強するが、日本の受験勉強の激しさとは比較にはならない。⁶⁵

1-9 スウェーデン

「スウェーデンの義務教育は、基礎学校（3年間×3段階）の9年間で、基礎学校の上には総合制高等学校（3年制）が置かれている。大学へは数年間働いてから入学するケースも多く、労働経験もメリットとなるシステムになっている。」⁶⁶

1-10 ポーランド

「原則として18歳までは義務教育を受けなければならないが、義務教育期間中の退学は（例えば、高校生であっても）認められない。」「高校か高等専門学校を修了し、統一試験（マトゥーラ：Matura）に合格した者が、大学へ進学できる。高等教育機関への進学率は約55%。」⁶⁷

1-11 アイスランド

アイスランドでは6歳から16歳までの10年間で義務教育となっており、「毎年4年生及び7年生を対象にしたアイスランド語と算数、10年生を対象にしたアイスランド語、算数、英語の全国一斉試験が実施される。これまで、義務教育修了時に全国統一試験が実施され、その試験結果が中等教育進学への基準となっていたが、現

在は一斉試験の代わりに、各学校における定期試験を基にした評価基準が適用されている。」⁶⁸

2 北アメリカ

2-1 アメリカ合衆国

義務教育の期間は州によって異なり、9年から12年であるが、10年とする州が最も多い。⁶⁹

「初等・中等教育は合計12年であるが、その形態は6-3(2)-3(4)年制、8-4年制、6-6年制、5-3-4年制、4-4-4年制など多様である。（略-鈴木）最近はミドルスクールの増加にともない、5-3-4年制が一般的である。このほか、初等・中等双方の段階にまたがる学校もある。2012年について、公立初等学校の形態別の割合をみると、3年制又は4年制小学校7.0%、5年制小学校34.6%、6年制小学校14.2%、8年制小学校8.8%、ミドルスクール17.9%、初等・中等双方の段階にまたがる学校8.7%、その他8.8%であり、公立中等学校の形態別の割合をみると、下級ハイスクール（3年又は2年制）9.2%、上級ハイスクール（3年制）2.2%、4年制ハイスクール52.2%、上級・下級併設ハイスクール（通常6年）10.1%、初等・中等双方の段階にまたがる学校20.8%及びその他5.6%となっている。」⁷⁰

後期中等教育にあたるハイスクールの入学試験については、公立高校と私立高校で異なる。

高等教育にあたる教育機関は総合大学、総合大学以外の4年制大学、2年制大学に大別されている。大学入学制度の概要を「教育改革国民会議の2000（平成12）年配付資料から見る」ことができる。

「アメリカでは大学入学についての統一的な

⁶⁵ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/05europe/infoC53200.html 2016/12/2

⁶⁶ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/05europe/infoC52200.html 2016/12/2

⁶⁷ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/05europe/infoC54000.html 2016/12/2

⁶⁸ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/05europe/infoC50100.html 2016/12/2

⁶⁹ http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/data/syogaikoku/1379305.htm 2016/12/12

⁷⁰ http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/data/syogaikoku/1379305.htm 2016/12/12

同出所では、「なお、初等・中等双方の段階にまたがる学校は初等学校、中等学校それぞれに含め、比率を算出している。」と付記されている。

規定はなく、各大学の定めた入学要件にしたがって入学者の決定が行われているが、多くの大学がSAT I (Scholastic Assessment Test), ACT (American College Test Program)の受験を義務づけているなど、共通する部分も多い。その決定方式は概ね以下の3つに分類される。

(1) 基準以上入学型 (Selective)

ハイスクールの卒業資格のほか、ハイスクールでの特定科目の履修と学業成績、及び適正テスト(SAT I又はACT)の成績等において、大学が定めた基準を満たした者を全員入学させるもので、多くの州立大学の入学方式がこれに含まれる。

(2) 競争型 (Competitive)

入学希望者が定員を大幅に上回るため、ハイスクールの卒業資格のほか、高いレベルの学力あるいは特定の資格を有する限られた数の入学者を選抜するもので、一部の有名私立大学などで用いられている。

(3) 開放型 (Open)

成績等に関係なくすべてのハイスクール卒業資格を持つ者に入学を認めるもので、短期大学(コミュニティ・カレッジ)などで行われている。

応募要件 (番号略—鈴木)

(1) 年齢要件

年齢による入学制限はない。

(2) 学力要件

基準以上入学型又は競争型の入学方式をとる大学では、高校での特定の科目(特に英語、数学等の主要な科目)の履修及び一定水準以上の学業成績(通常は、A、B、C、D、Fの5段階評価のうちC以上)を入学要件としている場合が多い。

入学者決定方法 (番号略—鈴木)

出願に際し、志願者は入学を希望する大学に

願書のほか、ハイスクールの学業成績、ハイスクールからの推薦状、学力適正テスト(SATI又はACT。大学がテストを指定している場合や、どちらを受験しても良い場合がある。)の得点、小論文の提出が求められ、この他に面接が課される場合もある。

各大学では、この情報をAO(アドミッション・オフィス)と呼ばれる入学担当事務局の専門職員(アドミッション・オフィサー)が総合的に判断し入学者を決定する。

(1) SAT I (Scholastic Assessment Test I)

大学入学試験委員会(CEEB)がアメリカ最大の民間テスト機関である教育テスト事業団(Educational Testing Service: ETS)に委託して実施している。

テストは言語領域と数理領域の2領域(それぞれ800点満点、合計1600点満点)であり、大学進学後の学業上の成功の可能性を評価するもので、ハイスクールの教育とは直接的な関連性を持たないとされている。なお、回答は基本的にマークシートによる多肢選択方式である。

テストは全国一斉に実施(2000年度は7回:2000年10月、11月、12月、2001年1月、3月、5月、6月)され、受験資格及び受験回数に制限はなく、年間の受験者数は200万人を超えている。

(2) ACT (American College Test)

アメリカ大学テスト事業団(American College Test Program)が実施している。

テストは英語(45分)、数学(60分)、読解(35分)、科学的推論(35分)の4領域であり、ハイスクールにおける学習の成果を測定することを目的としている。なお、回答は基本的にマークシートによる多肢選択方式である。

テストは全国一斉に実施(2000年度は6回:2000年9月、10月、12月、2001年2月、4月、6月)され、受験資格及び受験回数に制限はなく、年間の受験者数は約100万人である。⁷¹⁾

⁷¹⁾ <http://www.kantei.go.jp/jp/kyouiku/3bunkakai/dai3/3-3siryou4.html> 2016/12/13

3 アジア

3-1 中華人民共和国

前期中等教育にあたるのは初級中学である。「初級中学卒業後は普通教育を行う高級中学（原語同）と職業技術教育を行う中等専門学校（原語：中等专业学校），技術労働者学校（原語：技工学校），職業中学（原語に同じ）とに分かれる。後期中等教育機関への入学に際しては，各省・自治区・直轄市で統一入試が実施される。」⁷²この統一試験は「卒業試験であるとともに高級中学等への入学試験ともなっている。生徒は事前に第一志望以下何校かを記入した志願書を提出し，この統一試験の成績に基づいて進学先が決定される。」⁷³

大学は「普通大学」と「成人大学」にわかれており，「普通大学」は国家の定める設置基準によって設立され，全国普通大学統一テストに合格した高校卒業生を対象とする全日制の大学である。⁷⁴

3-2 大韓民国

前期中等教育にあたる3年間の中学校教育に続いて，「後期中等教育は，3年間，普通高等学校及び職業高等学校で行われる。普通高等学校の入学者は共通試験の合格者を学区内の学校に抽選で機械的に振り分ける『平準化』政策がとられている。職業高等学校は学校別に選抜により入学者を決定している。

また普通高等学校には，各分野の英才を対象にした高等学校（芸術高等学校，体育高等学校，科学高等学校，外国語高等学校）があり（普通

高等学校全体の約5パーセント），これらの高校は厳格な入学者選抜がある。」⁷⁵

高等教育への進学に際しては大学共通の大学修学能力試験がある。「国公私立を問わず4年制大学の大部分の志願者がこの試験を受けなければならない。この試験の結果次第で受験できる大学が，そして高校卒業後の人生が決まると言われている。（略一鈴木）

高校のカリキュラムにそった学力試験となっており，大学教育に適した能力を受験者が有しているかを測定することを目的としている。試験問題は試験後に公表され，再利用されることはない。大学は，高校作成の「総合生活記録符」と呼ばれる内申書および2次試験と合わせて総合評価するが，この大学修学能力試験が最大の比重を占める。比重は大学，学科，受験方式により異なる。」⁷⁶

3-3 シンガポール共和国

初等教育6年間，前期中等教育4年間，後期中等教育2年間の制度となっている。「原則的に6・4・2制をとってはいるが，進むコースによって修了年限が異なる。また，このコースは固定的なものではなく，随所にコース変更を行えるチャンスが与えられている。小・中学校は週5日制，小学校は午前と午後の2部制である。1年が4期に分かれ，それぞれのタームの間には短期・長期の休暇があり，年間200日の登校が定められている。」⁷⁷「小学校6年生終了時に初等教育修了試験（P S L E）が行われ，また中学校卒業時と高校卒業時には，それぞれ

⁷² http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/015/siryo/05120501/007/006.htm 2016/12/03

⁷³ <http://kwww3.koshigaya.bunkyo.ac.jp/wiki/index.php/%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E3%81%AE%E6%95%99%E8%82%B2> 2016/12/03

⁷⁴ http://www.spc.jst.go.jp/education/higher_edct/hi_ed_1/1_2/1_2_1.html 2016/12/03

⁷⁵ http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/015/siryo/05120501/006/005.htm 2016/12/04

⁷⁶ <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E4%BF%AE%E5%AD%A6%E8%83%BD%E5%8A%9B%E8%A9%A6%E9%A8%93> 2016/12/04

⁷⁷ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/01asia/infoC10400.html 2016/12/07

GCE"N" (Singapore-Cambridge General Certificate of Education Normal) または "O" (Ordinary) レベル, GCE"A" (Singapore-Cambridge General Certificate of Education Advanced) レベルの試験があり, その成績により進学コースが決定される。」⁷⁸

3-4 フィリピン

義務教育期間は, 就学前教育, 初等・中等教育の1(幼) - 6(小) - 4(中) - 2(高)を合わせた13年間となっている。2011年~2012年のデータで就学率を見ると, 初等教育は97%, 中等教育は65%となっている。⁷⁹

3-5 ネパール

義務教育受け入れ年齢は5歳から25歳まで。1学年に多様な年齢の児童・生徒がいる。初等教育は1年生から8年生までの8年間で, 義務教育となっている。中等教育は9年生から12年生までの4年間で, これに高等教育が続く。「10年生及び12年生終了時に各々全国共通の認定試験SLC (School Leaving Certificate) がある。この成績は大学への入学, 公務員の採用試験の際に必要とされる。」⁸⁰

3-6 ミャンマー

初等教育と中等教育を合わせた「基礎教育」と高等教育から構成されている。「基礎教育機関には, 小学校5年間, 中学校4年間, 高等学校2年間および各種職業学校がある。高等教育機関には, 短期大学, 大学がある。各学校はすべて政府の統括下にあり, 教育方針や教育課程などは教育省が管轄している。」⁸¹ 満5歳になっ

た児童から初等教育を受けることができる。

「2001年度からは, 1年生から11年生までの進級および11年生修了について, 各教科修了テスト及び学年末試験により児童生徒の学力を評価する『学力継続評価制度』を実施している。(略-鈴木) 大学入学試験については, 11年生卒業と大学入試を兼ねた, ミャンマー試験委員会による『全国共通試験』が実施されている。」⁸²

3-7 タイ

初等教育機関にあたる6年間の初等学校, 前期中等教育機関にあたる3年間の前期中等学校が義務教育期間となっており, それに続くのが3年間の後期中等学校, さらに4年間の大学である。⁸³

「高校(後期中等学校-鈴木)には入学試験を受けて入学する。また各段階では, 生徒はNET (National Educational Test) という試験に通る必要がある。生徒は小学校(初等学校-鈴木)の6年間と最低3年間の中学校(前期中等学校-鈴木)に出席する必要がある。高校卒業するものには, 2つのテストがある。O-NET(Ordinary National Educational Test) と A-NET(Advanced National Educational Test) である。」⁸⁴

3-8 インド

初等教育と中等教育についてみると, 初等学校, 上級初等学校, 中等学校, 上級中等学校の4段階になっており, 「5・3・2・2制を基本としている(州により若干の相違あり)。中等学校(10年生)修了後, 第10学年修了共通試験に合格した者は上級中等学校に進み, 2年間の

⁷⁸ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/01asia/infoC10400.html 2016/12/07

⁷⁹ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/01asia/infoC11400.html 2016/12/07

⁸⁰ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/01asia/infoC10900.html 2016/12/07

⁸¹ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/01asia/infoC11800.html 2016/12/07

⁸² http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/01asia/infoC11800.html 2016/12/07

⁸³ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/01asia/index01.html 2016/12/09

⁸⁴ <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BF%E3%82%A4%E3%81%AE%E6%95%99%E8%82%B2> 2016/12/07

教育を受ける。その後、第12学年修了共通試験を受け、その結果によって希望する大学に進学することになる。トップレベルの大学では別途、入学試験を行うところもある。」⁸⁵

3-9 スリランカ

スリランカの義務教育は、就学前教育にあたる幼稚園の1年間から始まり、小・中一貫教育の11年間を合わせて12年間となっている。「義務教育修了時にはGCE"O"レベルの試験（国家試験）があり、成績優秀者は高校進学資格を得ることができる。合格率は平均して受験生の30～40パーセントとなっている。高校2年生時にはGCE"A"レベルの試験があり、この結果が大学進学、就職に大きく影響する。大学に進学する者は、約2パーセント弱である。」⁸⁶「高校への進学率（GCE"O"レベル合格者）は約40パーセントで、大学への進学率（GCE"A"レベル合格者）は約2パーセント弱。Aレベルに合格しても、大学の数が少ないので全員大学に入学できるとは限らない。」⁸⁷

4 オセアニア

4-1 オーストラリア

「オーストラリアの教育は、就学前教育、義務教育（準備学級（5歳児）を除く初等教育及び前期中等教育）、義務教育以降の教育（後期中等教育、大学等）の段階に分かれている。」

「後期中等教育（College）：16歳～（2年間）

専門学校（VET/TAFE）：16歳～（約2年間）

大学（University）：18歳～（3～4年間）

※TAFE（Technical and Further Education）と呼ばれ、ビジネス、会計、観光、建築等専門分野について学習する公立の専門学校で、職業教育訓練校（VET：Vocational Education and

Training）の大部分を占める。」「前期中等教育終了後、大学（University）や専門学校（TAFE）へ進学を希望する学生は後期中等教育（Year11, 12）に進学し、大学や専門学校で専攻する専門分野の基礎を勉強する。Year12の後半で、州ごとに実施される統一試験を受験し、後期中等教育の成績と併せて志望する大学及び専門学校への入学の可否が決定される。大学等への進学率は州によって異なる。」⁸⁸

4-2 ニュージーランド

「ニュージーランドの学校教育は就学前教育、初等教育、中等教育及び高等教育の4段階に分かれ、義務教育は6歳から16歳の誕生日までとなっている。」「初等教育（義務教育は6歳からであるが、ほとんどの子どもは5歳になると小学校に入学している）は、5歳と6歳がYear 1～2、7歳から10歳までがYear 3～6、11歳と12歳がYear 7～8で、地区によりYear 7～8を中間学校（Intermediate School）として別に行っているところもある。初等教育では国語（英語）の話し方・書き方を含め、算数、社会、美術、体育、音楽などを教えている。中等教育（Secondary School）はYear 9～13で、13歳から入学するが、そのほとんどはカレッジ（College）と呼ばれている。

高等教育は高等技術専門学校（Polytechnics）、教員養成大学及び総合大学で受けることができる。これらはすべて国立の教育機関である。高等教育機関への入学者数は毎年増加しており、職を持つパートタイムの学生も多い。一方、通常の小・中学校及び高校のほか、居住地や病弱などの理由で通学が不可能な児童生徒を対象にした通信学校がある。

また、宗教や思想に基づいた私立学校が各地

⁸⁵ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/01asia/infoC10100.html 2016/12/10

⁸⁶ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/01asia/infoC10500.html 2016/12/10

⁸⁷ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/01asia/infoC10500.html 2016/12/10

⁸⁸ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/02pacific/infoC20100.html 2016/12/10

にあり、教育省の定めるカリキュラムに沿いつつも、それぞれ特色のある教育を施している。」

「大学、技術専門学校はすべて国立。大学に進学するためには、year 13を修了し、NCEA (National Certificate of Education Achievement) のレベル3を取得する必要がある、NCEAの結果により志望大学が決定する。」⁸⁹

⁸⁹ http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/world_school/02pacific/infoC20800.html 2016/12/10
ニュージーランドの引用文はすべて注89と同出所。